

「広島神楽」定期公演へようこそ!

公演日 11月5日

出演団体のご紹介

八重西神楽団 ～やえにしかぐらだん～ (山県郡北広島町)

団の発足は昭和46年で、前身の寺原神楽団は明治初期からあったと言われ、寺原八幡神社・有間八幡神社の氏子において結成されています。

現在、団員23名で構成しており、郷土芸能の神楽を保存・伝承するため、地元の氏神祭をはじめ、各地域のイベントや神楽大会に参加しています。

現在は、以前からある新舞の演目に加え、八重西神楽団オリジナルの「奥州安達ヶ原の鬼女」や「鬼同丸退治」など、新たな演目も創造しています。

19:00～ 演目①

滝夜叉姫 ～たきやしゅひめ～

東の国の新皇を名乗った平将門(たいらのまさかど)は、天慶(てんぎょう)の乱で藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)の軍に敗れ去ります。

平将門の娘・五月姫(さつきひめ)は、父の怨念を果たす為、貴舟(きふね)の社(やしろ)に「願」をかけ、満願と共に貴舟の神より妖術を授かります。五月姫は、名を「滝夜叉姫」と改め、父の因縁の郷、下総の国・相馬(そうま)の地に立ち戻り、多くの手下を従えて反乱を企てます。

陰陽師・大宅中将光圀(おおやのちゅうじょうみつくに)らは、姫征伐の朝命を奉じ、下総の国へと向かいます。陰陽の術と邪心の妖術の激しい戦いとなりますが、滝夜叉姫の朝廷に対する復讐は成らず、無惨に敗れ去っていくという物語です。

【出演】

大宅中将光圀	—	岩角 圭太
山城光成	—	川口 暖喜
五月姫	—	田中 聡
夜叉丸	—	清中 智貴
蜘蛛丸	—	五反田 直也

大太鼓	—	大塚 和典
小太鼓	—	大塚 陸
手打鉦	—	新本 一樹
笛	—	藤本 智子

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。

20:00～ 演目②

八岐大蛇 ～やまたのおろち～

出雲の国に暮らす足名椎(あしなづち)・手名椎(てなづち)老夫婦には八人の娘がいました。しかし年毎に一人またひとり大蛇に飲み取られ、七人まで娘を失いました。そしていよいよ八人目の姫が飲み取られる季節となり、老夫婦と八人目の姫・奇稻田姫(くしいなだひめ)は嘆き悲しんでいました。そこへ高天原(たかまがはら)から舞い降りた素戔嗚尊(すさのおのみこと)が通りかかり、その訳を聞きます。

尊は、大蛇退治を決め、老夫婦に八塩折(やしおり)の毒酒を造らせ酒を入れた樽の後に姫を立たせます。やがて、どこからともなく大蛇が現れ、毒酒に映った姫の影を飲み干していきます。酔いの回るほどに暴れ狂い、しだいに酔い伏してしまいます。これを待ち構えていた尊は、壮絶な戦いの末、大蛇を退治します。

大蛇の腹を切り裂くと、一本の刀が出てきます。これを天叢雲劍(あめのむらくものつるぎ)と名づけ、天照大神(あまてらすおおみかみ)に捧げます。そしてめでたく奇稻田姫を妻とし、平和で豊かな出雲の里で暮らしていくという物語です。

【出演】

素戔嗚尊	—	大塚 和典
足名椎	—	中増 亨
手名椎	—	室畑 晴史
奇稻田姫	—	大塚 陸
大 蛇	—	坂本 伸次
大 蛇	—	芥川 智成
大 蛇	—	五反田 直也
大 蛇	—	岩角 圭太
大 蛇	—	田中 聡

大太鼓	—	大塚 英樹
小太鼓	—	清中 智貴
手打鉦	—	新本 一樹
笛	—	藤本 智子

※出演者は予告無く変更になる場合がございます。

終演後(20:45頃～)記念撮影会を実施します。どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。

※記載の時間は目安です。多少前後する場合がございますので、あらかじめご了承ください。